

## 第2回恵那市リニアまちづくり基盤整備計画策定委員会【会議要旨】

日時：令和元年11月1日(金)

午後1時30分～午後3時20分

場所：恵那市役所会議棟大会議室

1. 開会
2. あいさつ
3. 議事
  - (1) 第1回基盤整備計画策定委員会の意見と計画への反映について
  - (2) パブリックコメントの意見と計画への反映について
  - (3) 今後のスケジュールについて
4. その他
5. 閉会

公開または非公開の別 公開

出席者（敬称略）

委員長：磯部友彦

副委員長：山本好作

委員：前川登、山内達雄、額額錬一、中垣重壽（代理）、阿部伸一郎

オブザーバー：武田正昭、加藤一郎（代理）

傍聴者 3名

## 1. 開会

## 2. あいさつ

(磯部委員長)

計画(案)についてのパブリックコメントが終了した。本計画は早く公表したいという性質のもの。皆様の活発な意見をいただきたい。

## 3. 議事

(1) 第1回基盤整備計画策定委員会の意見と計画への反映について

事務局から第1回基盤整備計画策定委員会の意見と計画への反映について説明

《発言内容》

(前川委員)

- ・地域のまちづくりについての文言に、「行います」「検討していきます」「進めます」という言葉がある。「進めます」「考えていきます」といった言葉でないと、やっていけないのか、という印象を受ける。実施する方向で検討するという書き方はできないか。市民が読む目線で作成してもらいたい。

(事務局)

- ・地域のまちづくりについては、地域の方々と話し合いを進めているところ。ご意見をいただきながら、地区計画という位置付けで地域の基盤整備を進めていきたいと考えている。本計画でどのように行うのか決められるものではないが、実施する方向で検討していきたい。語尾の書き方については検討する。

(山本委員)

- ・計画(案) P.1「はじめに」に追記した、「使えるまち」という言葉のイメージがわかりにくい。

(事務局)

- ・本計画はリニアまちづくり構想に基づくものであるため、構想の言葉を用いている。構想の目指すべき将来像「リニアでわくわく ちょうど えーなー 暮らしのびのび、遊びウキウキ、仕事すいすい、未来のふるさとづくり。」の「仕事すいすい」を言い換えて「使えるまち」という言葉を用いている。これは、リニアで首都圏に近いというポテンシャルを活かし、また、IT環境でも「使えるまち」という意味。

(磯部委員長)

- ・構想作成時に様々なことを想定し、市外・市内の方々や、様々な場面で「使える」という意味を一つの言葉で表現し、「使えるまち」という言葉を用いたものでもある。

(山本委員)

- ・計画(案) P.30 の計画道路幅員 6m というのは、側溝まで含んで 6m ということか。側溝の上を車が通る前提で考えているのか。歩行者・自転車の安全対策との整合性がとれなくなるのでないか。

(事務局)

- ・前回から幅員を広げたわけではなく、表現方法を変えたもの。前は車道として舗装部分を示していたが、今回は側溝を含んだ幅員を記載している。側溝の上を車が通れる構造にする。道路構造令に基づき、1車線ではあるがすれ違いができるよう、両側側溝含め最低限の幅員 6m としている。

(阿部委員)

- ・河鹿橋は 14t の車両重量制限があるため、一部企業が通行していないという話を聞いた。観光バスが河鹿橋を通行できないと恵那峡の観光へ影響が出る。補強する際は何 t まで通行可能にするのか。前期計画に位置づけられているが、これはもっと喫緊の課題ではないか。

(事務局)

- ・以前調査をしており、理論上は車両重量 20t の補強ができる。しかし、現実的は架け替えになるのではないかと。施工時に通行止めとするわけにはいかないため、仮設の橋が必要となる。技術的にも費用的にも課題はあるが、河鹿橋の 14t の車両重量制限は前期計画の中でも優先順位が高い喫緊の課題であると考えている。

(武田オブザーバー)

- ・計画（案）P.4 の国道 19 号の瑞浪恵那道路に関する記載について、まだ瑞浪恵那道路はできていないのでこの書き方はおかしいのではないかと。

(事務局)

- ・既存の国道 19 号の恵那バイパス、新設される瑞浪恵那道路両方に関する内容として記載している。書き方については、次回までに多治見砂防国道事務所と調整させていただく。

## (2) パブリックコメントの意見と計画への反映について

事務局からパブリックコメントの意見と計画への反映について説明

《発言内容》

(前川委員)

- ・計画（案）P.41 に「良好な住環境の保持」について追記されているが、後期計画に記載しているため、リニア建設後に対応するように捉えられる。パブリックコメントでは、建設時にも対応していただきたい、というものではないかと。

(事務局)

- ・環境対策について、恵那市は市民側に立って、事業者・原因者である JR 東海に対応を求めていく姿勢をとっている。こうした恵那市の姿勢は、恵那市リニア中央新幹線対策協議会でも一貫している。建設後の対応だけを求めるわけではないので、建設前から対応を求めるよう、書き方を検討する。

## (3) 今後のスケジュールについて

(事務局)

- ・第 3 回策定委員会 12 月 6 日（金）16 時 00 分～ 会議棟大会議室
- ・第 3 回委員会後、計画（案）市長報告のセレモニーを予定している。

## 4. その他

(前川委員)

- ・計画（案）P.35 に「道路面から橋梁までの高さは 4.7m」との記載があるが、JR 東海から聞いていた話と違う。以前の話からの変更点があればその旨示していただきたい。

(事務局)

- ・JR 東海から提示された資料に 4.7m という数値が示されていた。地域の方に誤解を与えるような形になり申し訳ない。今後、地域への周知方法には気を付けたい。

(武田オブザーバー)

- ・上位計画との関係等わかりやすくなっている。歩行者・自転車等利用者というキーワードがどう反映されているのかが見えにくい。

(事務局)

- ・計画(案) P.10 に、歩行者・自転車等利用者への配慮という旨の文言を追記した。機能確保以外の個別の路線については具体的に何も決まっていないため、今後詳細な計画を作る際に配慮していきたい。

(加藤オブザーバー代理)

- ・計画(案) P.30 の道路幅員の表記について、岐阜県では一般的に道路幅員を記載するときには側溝を含まない数値を記載している。瑞浪恵那道路の計画等の他の道路計画と表記方法を統一したほうがよいのでは。また、幅員の妥当性を道路構造令等で示すとよいのでは。

(事務局)

- ・本計画は基盤整備計画であるため、都市計画法に基づく開発に必要な道路幅員を考えて本表記方法を選択した。

(瀬瀬委員)

- ・武並町で組織している武並町リニア対策委員会が10ヶ月ほど開催できていない。JR 東海のリニア事業の進捗状況等市民への説明の機会を設けてほしい。瑞浪恵那道路は、国土交通省からの説明を受けて地域の意思統一ができつつある。

(事務局)

- ・JR 東海からは、工事の公募をかけており、業者が決まると詳しい説明ができると聞いている。武並町リニア対策委員会の開催については、武並振興事務所と調整して設定したい。

## 5. 閉会